

韓国の研究者が来館

6月1日、韓国の国立春川（Chuncheon）博物館の学芸研究室長、金尚泰さんが野尻湖の石器見学のために来館されました。今回の調査の中で、金さんは特にナウマンゾウ博物館や野尻湖遺跡群に感銘を受けたとのこと。韓国にもこういった場所があれば・・・と言っておられ、おソバも気に入ったみたいで、日本の様々な文化を学ぶことができよかったです。



右より金尚泰さん、東大大学院生の役重みゆきさんと夏木大吾さん、日向林B遺跡にて

野尻湖・春の地質調査

5月25・26日に野尻湖地質グループの人たちの地質調査がおこなわれました。ことは3月の大崎の調査で、ナウマンゾウの化石が多く出たことから、立が鼻の湖岸から国際村までのあいだの地層の分布を確かめよう、という新しい課題ができました。

4月に入学した大学生も大勢あつまり、野外で地質を調べる講習もおこなわれました。



ローム層のがけの調査
ナウマンゾウがいた頃の火山灰層

2013年 夏休み博物館ミニ講座

体験学習を中心としたミニ講座をおこないます。自分の手で氷河時代の自然や暮らしを調べてみませんか。
8月1日(木)～8月16日(金) 毎日：午後1時～3時
申込はいりません。無料です。 場所：博物館まえ
内容「火山灰の鉱物しらべ」8月1、4、7日
「昆虫化石さがし」 8月5、9、12日
「石器づくり」 8月2、3、6、8、10、11日
「アジアゾウの骨をしらべよう」 8月13～16日

第28回特別展 3階特別展示室

「旅する旧石器－3万年前の石斧の文化のひろがり－」

期間 2013年7月19日(金)～11月30日(土)
石器時代の人びとは、槍などの道具を使って動物の狩りをして暮らしていました。遺跡に残された石器の石材を調べることで、当時の人たちがたどった生活範囲を調べることができます。約3万年前の日本海沿岸に広がった軟玉(透閃石岩)製の石斧を例にとり、「氷河時代の人々の旅のようす」の一端をご紹介します。
協力 日本考古学協会2013年度長野大会実行委員会

2013年 親子地層観察会のご案内

野尻湖発掘調査団・野尻湖ナウマンゾウ博物館

今年も夏休みに親子地層観察会を開催します。ナウマンゾウを発掘している野尻湖発掘地のまわりの地層や火山灰を観察します。また、火山灰層の中から鉱物を探したり、地層のなかから氷河時代の昆虫化石を探してみましょ。野尻湖発掘に興味をもっている方でしたら、小学生から一般の方まで、どなたでも参加できます。ふるってご参加ください。
と き 2013年8月10日(土) 午後1時～11日(日) 午前12時ごろまで
集 合 8月10日(土) 午後1時に 野尻湖ナウマンゾウ博物館まえ
参加費 一般500円 小中学生・高校生・学生300円(保険料+おやつ代)
このほかに茶話会のジュース代など
やること 野尻湖発掘地周辺の地層を観察します。火山灰を採集し、そのなかから鉱物をさがします。また昆虫化石探しや化石のレプリカづくりなども行う予定です。
申し込み 参加ご希望の方は下記まで申し込んでください。
申し込み締め切り 2013年7月31日
申し込みをされた方には、詳しい内容をご連絡します。
申し込み先・お問い合わせ
389-1303 長野県上水内郡信濃町野尻 287-5
野尻湖ナウマンゾウ博物館気付
野尻湖発掘調査団事務局
電話 026-258-2090 FAX026-258-3551
E-mail nojiriko@avis.ne.jp

幻の池 古池・種池を歩こう

黒姫山のうらには、あまり人がいかない池があります。この池のまわりには、めずらしい植物や動物たちがいます。歩くのはおよそ4kmくらいです。くつはすべりにくいハイキング用のくつがいいでしょう。行き帰りはバスを使います。
と き 2013年7月6日(土)
ところ 黒姫西登山道入り口から古池までおよそ4kmほど
集 合 午前9時 野尻湖ナウマンゾウ博物館前
解 散 午前12時ころ
持ちもの リュックサック、ノート、鉛筆、消しゴム、タオル、水筒、雨具、もっている人は双眼鏡やルーペがあると便利です。双眼鏡はお貸しします。
服 装 よごれてもいいハイキングの服装。
小学生の低学年の方は大人の人といっしょに参加してください。
費 用 100円(資料代+保険代)
人 数 20名(定員になりしだいしめきります)
申し込み 7月5日の学習会前日までに博物館へ(電話 026-258-2090)
大雨の場合は中止します。不明の場合は、当日朝8時ころに博物館までお問い合わせください。

博物館のページ



野尻湖
ナウマンゾウ博物館

雨の中、苗名滝まで探検しました。
6月15日



葉に穴が並んでいます。さて何でしょう？



これは何？足がたくさんあります。

雨雲が黒姫山を覆っていましたが、出発するときは曇りだったので、途中で雨にあってもいい支度をして、出発しました。14名の参加で、保育園の年長さんもおんぼつて歩きました。朝方はとても気持ちよく、ヒダリマキマイマイやアズマヒキガエルなど雨のとき

にしか会えない生き物たちが出迎えてくれました。また、サンコウチョウの鳴き声を確認できました。残念ながら姿は見えませんでした。後半は雨がふってきたので、滝まで急いでいきました。とてもいい経験になりました。先生がいろいろなことを教えてくれました。めずらしい鳥の鳴き声がきけました。滝の迫力がすごかったです。びしょぬれになって寒かったです。



みんなよくがんばって滝に到着しました。

〇先生がいろいろなことを教えてくれました。めずらしい鳥の鳴き声がきけました。滝の迫力がすごかったです。びしょぬれになって寒かったです。

信濃小中学校5年 川口杜太
〇いろいろな植物を知ることができてよかったです。鳥の鳴き声がきこえました。今日はめずらしいものをいっぱい見ることができました。
信濃小中学校5年 駒村 瞭
〇このこえがきこえて、よかったです。いっぱいあるけてよかったです。かたつむりにあえてよかったです。
信濃小中学校1年 寺島 凜空斗
〇かえるたのしかったよ。
古間保育園 小林 凜果

学習会「ホタルをしらべよう」

(信濃町ほたるの会共催)

ゲンジボタルは6月下旬から7月上旬にみられます。一番いい時にホタルをしらべる学習会をおこないます。ホタルの種類や暮らしについて、みんなでしらべましょう。
今年はホタルがいっぱい出てくれるでしょうか？
日 時 2013年7月6日 土曜日 午後7時集合
場 所 信濃町古間戸草 集会所まえ
内 容 芋川用水でホタルの生活と種類、見分け方、数の数え方などを学習します。学習会の後は、ホタルの観察。
小さなお子さんは家族の方と一緒にご参加ください。
持ち物 筆記用具、ぬれてもいい服装、くつ(長靴)
費 用 保険料など100円
申し込み 当日の昼までに博物館に電話で
その他 ホタルの都合で7月7日になる場合もあります。
博物館 026-258-2090

ホタルと人工照明

ホタルの季節となり、各地でホタルがみられるようになりました。ホタルの成虫は1週間ほどの命で、その間に相手を見つけて川べりのコケに卵をうみます。ホタルは成虫だけでなく川にいる幼虫の時も、光りますので、街灯の明りが明るいところでは生きることができません。
最近、信濃町でも街灯や家の光をLEDにするところが増えてきました。少しでもホタルがいるところの近くでは、ホタル固有の光(青～黄緑色、465～560ナノメートル)に近いと、かく乱され繁殖出来なくなってしまう。
白熱電球は太陽光に近くあらゆる波長の光が混ざっています。それに対して、LEDは特定の波長だけになっていて、ピークは青473、緑520、黄色590、赤色632ナノメートル(nm)などです。ホタルが少しでもいる所では、光を黄色から橙色・赤色にすることがホタルを守ることになると言われています。
最近、信濃町はホタルも出ていい所だというイメージが広がっているようで、この季節遠くからも自然を楽しみに来る人が少しずつ増えています。豊かな信濃町の自然環境は、他にはない貴重な財産です。
<http://www.tokyo-hotaru.com/jiten/report11.html>
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jscejg/65/1/65_1_1_1_pdf
(宮下衛さん論文)